

# 東急子ども応援プログラム 活動報告書



## 2024年度 こどもまんなか多文化理解教育プロジェクト



### プロジェクトの背景

私たちは、2023年度の「東急子ども応援プログラム」の助成事業として、年間15回にわたり、異なる文化を楽しむことをテーマとした子ども多文化交流事業を実施しました。この活動を通じて、特に学童期や中高生にとっては、「なぜ違いを受け入れ、尊重する必要があるのか？」といった問いに対し、より深く考える機会が重要であると感じました。そこで2024年度は、都筑区の学童の小学生、及び青葉区の塾の中高生とともに年間を通したプロジェクトを展開。小学生は動画制作に取り組み、中高生は「ダイバーシティ・トークカード」の制作に挑戦しました。

### 概要

私たちは、外国籍の児童、外国にルーツを持つ児童、そして日本人の児童が、互いに多様な価値観にふれることができる場をつくっています。子どもたち自身が課題に取り組む活動を通じて、文化の違いに気づくだけでなく、その違いについて自ら考える機会を提供します。このプロセスの中で、子どもたちが自己理解と他者理解を深め、人権感覚を育めるよう支援します。また、ステレオタイプな文化の違いにとどまらず、人権教育に基づいた多文化教育プログラムを実践します。

### 目標

- 学童期の児童が文化的な違いに気づくだけでなく、人権教育の観点から「違いを尊重する態度」を育むことを目指します。
- 学童期の児童がプログラムの受け手として留まるのではなく、主体的に課題に取り組むことを通じて、自己理解や他者理解を深めることを目的とします。
- 外国籍または外国にルーツを持つ児童の保護者が、企画側としてプロジェクトに参画することで、地域の外国籍・外国ルーツの家庭と日本人家庭が出会い、相互の関係構築を促進します。

# 活動実績

## 学習塾「スターグローブ」との協働

これまで私たちは、青葉区にある学習塾「スターグローブ」の中高生（延21名）に対し、ハロウィンやイースターなどの地域イベントにおいて、ボランティアとして参加いただき、運営補助の役割を担っていただきました。2024年度は、「多文化理解教育」をテーマに、より探究的な活動を展開しました。塾生たちは、自身の身近にいる外国出身者（主に高校の外国人留学生）へのインタビューを通じて、多様な背景や経験に触れる機会を得ました。また、塾内で対話の場を設け、意見交換や議論を通じて、理解を深めることができました。さらに、活動の中で「外国出身者が日常生活で抱える困りごとを可視化できると良いのではないか」という意見があり、それを受けて「ダイバーシティ・トークカード」の制作を行うこととなりました。塾生たちは、インタビューで得た声をもとにカードの設計を行い、質問項目の考案にも主体的に取り組みました。

### 実施日・活動場所

### 活動内容

#### 2024年7月15日 第1回ワークショップ

#### 外国人児童の体験談をもとにしたワークショップ



活動場所：山内地区センター集会ホール  
参加者：塾生8名, SCC外国籍児童2名

本ワークショップでは、外国籍児童4名の体験談を共有しました。参加した中高生はグループに分かれ、各自が関心を持ったエピソードを1つ選び、その内容に対する意見や感じたことを付箋に書き出すワークを行いました。参加後に実施したアンケートでは、

- 「日本に住む外国人がこんなに困っているとは知らなかった。衝撃的だった」
- 「改めて、平等に接し、外国人にもっと優しく関わりたいと思った」
- 「さまざまな人と意見交換ができて楽しかった」

といった感想が寄せられ、参加者にとって多文化共生や他者理解について考える貴重な機会となったことがうかがえました。

#### 2024年10月19日 第2回ワークショップ

#### カード化にあたって、ヒアリングしたことを共有



活動場所：山内地区センター 工芸室  
参加者：塾生4名, SCC外国籍児童1名

第2回ワークショップでは、中高生4名が、自身の身近にいる外国出身者への聞き取りを行い、その内容を発表しました。また、外国籍児童が、自らの体験を共有し、そのエピソードを「ダイバーシティ・トークカード」として可視化する活動も行いました。

カードの表面には、体験した場面をイラストで表現し、内容を印象づけるキャッチコピーを考案しました。たとえば、インドネシア出身の児童が作成したカードには、「（クリスマス会）参加しちゃうダメ？」という言葉が記されており、日本人の中高生たちは、そのエピソードに強い関心を示し、「知らなかった」といった声も聞かれました。

#### 2024年11月17日 第3回ワークショップ

#### カードに掲載する情報の検討・選定



活動場所：アートフォーラムあざみ野  
セミナールーム  
参加者：塾生8名、SCC外国籍メンバー5名

第3回ワークショップでは、多文化共生に関する課題への理解を深めることを目的に、当法人（SCC）の代表理事の三坂より、現在の日本社会における多文化共生の課題についての説明を行いました。

これを受けて、中高生とともに、改めて「ダイバーシティ・トークカード」を制作する意義について確認しました。その後、参加した中高生8名と、当法人に所属する外国出身メンバー5名を2つのグループに分け、カードの内容や選定に関する意見交換を行いました。

# ダイバーシティ トークカード

Diversity TalkCard

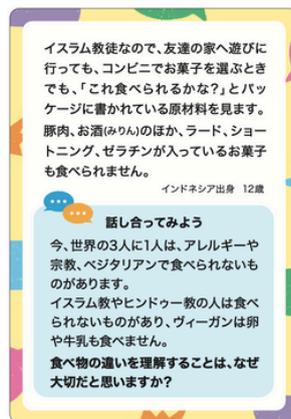
3回のワークショップを通じて、合計27枚の「ダイバーシティ・トークカード」が完成しました。

カードのイラストおよび収納用の箱のデザインは、Tane'tのデザイナー・戸原氏にご協力いただきました。完成したセットには、27枚のカードに加え、無地のカードが3枚同封されています。これは、利用者自身が新たなテーマを考え、自由にカードを追加できるようにするための工夫です。

外国から来た人や、違う文化を持っている人たちは、日本でどんな気持ちで生活していると思いますか？そんなことを考えたことはありますか？

同じ文化や言葉の中で育っていると、気づきにくい問題があります。このカードは、いろいろな文化や言語を持つ人たちとどうやって一緒に暮らしていけるかを考えるためのヒントになります。

さあ、ダイバーシティ・トークカードを使って、みんなで話し合ってみましょう！



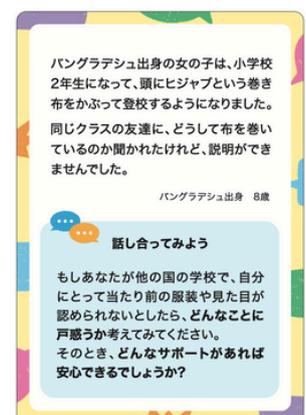
このカードは、インドネシア出身の小学生が自身の体験をもとに作成したものです。

友人の家を訪れた際に、おやつを勧められても、宗教上の理由から食べられないものがあるため、「これは食べられるかな?」と考えることが多いそうです。

こうした子どもたちの気持ちを可視化し、理解を促すことを目的として、本カードを選定しました。

このカードは、代表理事の三坂が小学校で外国人児童への日本語指導に携わっていた際の体験をもとに作成したものです。

イスラム教徒の児童が増加する中で、女子児童が身につけるヒジャブ（スカーフ状の布）について、教員が子どもたちにどのように説明すればよいのか分からず、戸惑う場面が見受けられました。このカードを通じて、異なる文化への理解を促すきっかけとなることを期待しています。



# 活動実績

## 認定NPO法人あっとほーむ との協働

2020年以降、SCCは都筑区にある学童「あっとほーむ」において、児童を対象とした多文化交流事業を継続的に実施してきました。今回は、同施設に通う児童を対象に、「子ども主体」に重きを置き、子どもたち自身が考えて取り組む活動を通じて、多文化理解を深めるプログラムを展開しました。初回のワークショップ実施後は、児童の年齢に配慮し、カードの制作に代えて、NPO法人キッズディレクターの協力のもと、外国にルーツをもつ子どもたちの想いをテーマとした動画制作に取り組みました。完成した子どもたちの作品は、「かながわ・わがまち映像祭」へ応募し、そのうち2作品が優秀賞を受賞しました。

### 実施日・活動場所

### 活動内容

#### 2024年9月28日 第1回ワークショップ 外国人児童の体験談をもとにしたワークショップ



活動場所：認定NPO法人あっとほーむ  
参加者：学童児童 8名, SCC外国籍児童2名

外国人児童の体験談を3つ紹介したうえで、グループに分かれて、印象に残ったエピソードを1つ選び、それについての意見や考えを付箋に書き出すワークを行いました。実施前は、児童の興味・関心や理解度に不安もありましたが、いずれの児童も意欲的に自分の考えを付箋に書いていたことに驚かされました。学校という日常的な場面設定が、取り組みへの動機づけにつながったのかもしれない。

次のワークショップでは、「外国につながる子どもたちが日本でより過ごしやすくなるために直面している課題は何か」をテーマに、子どもたち自身が伝えたい内容を動画で発信することを呼びかけました。

#### 2024年11月15日 第2回ワークショップ タブレットを使って、動画制作の基礎を学ぶ



活動場所：中川西地区センター 会議室  
参加者：学童児童6名, SCC外国籍児童1名

小学生向けの動画制作を指導しているNPO法人キッズディレクターの森さんにより、7名の子どもたちに動画制作の基本についてのレクチャーが行われました。

子どもたちはタブレット端末を使って自由に撮影を行いながら、「引き」と「寄り」といった撮影の基礎を学びました。最後には、各自が撮影した映像を発表し合い、互いの作品を共有する時間も設けました。

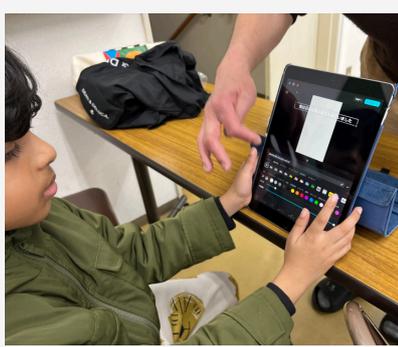
3回目、4回目は冬休みに子どもたちがストーリーを考えて絵コンテを作成し、動画撮影と編集に取り組むことにしました。

#### 2024年12月27日 第3回ワークショップ

#### 2025年 1月13日 第4回ワークショップ



活動場所：中川西地区センター 会議室  
参加者：学童児童6名、SCC外国籍児童1名



#### 子どもによる動画撮影と編集作業

2つのチームに分かれ、まずはテーマを決めて絵コンテを作成しました。1つのチームは「算数は好きだけれどテストができない」というインド出身の男子の体験を、もう1つのチームは「クリスマス会に参加しちゃダメ？」をテーマに動画を制作しました。3時間という限られた時間の中で撮影までを終え、子どもたちの集中力が素晴らしかったです。

1月には、タブレット端末を使って撮影した動画の編集を行い、森さんの指導のもと、音楽の挿入なども含めてすべての作業を3時間で完了。無事に映像祭へ応募することができました。

# かながわ わがまち映像祭

本プロジェクトの一環として、認定NPO法人あつとほ一むに通う学童児童およびSCCの外国籍児童が制作した1分間の短編動画を、NPO法人ちいき未来が主催する「かながわ・わがまち映像祭」に応募したところ、「クリスマス会」と「ぼく」の2作品が優秀賞を受賞しました。

2025年3月9日に神奈川県民活動サポートセンターにて開催された表彰式には、受賞作品を代表して、児童が登壇し、作品の紹介を行いました。

「ぼく」という作品を制作した、インド出身の10歳の児童は、今回の受賞をきっかけに「来年も動画を作りたい」と、表彰式に同席した両親に話していました。

インド出身の両親は、「日本では言葉の壁があり、活躍の機会が限られているが、今回の受賞を通じて息子が自信を持ったようで嬉しい」と話しており、その言葉が非常に印象的でした。

この出来事を通じて、映像制作は、言語的なハンディキャップを抱える外国ルーツの子どもたちにとって、貴重な自己表現の手段となり得ることを強く実感しました。



また、インド出身の児童の母親は、自宅で「宿題の漢字がわからない！」と混乱していた息子に対し、その様子を動画編集アプリ「CapCut」を使って撮影してみてもどうかと提案し、プロジェクト終了後も家庭で動画を制作していると話していました。

自分が困っている状況を動画で表現することにより、「誰かと感情を共有する手段がある」ということを、本人が実感したようでした。このように、映像表現を通じて外国ルーツの子どもたちに自己表現の新たな手段を伝えることができた点も、本プロジェクトの一つの成果であったと考えています。

また、学童に通う児童たちは、外国ルーツの児童と協働して動画制作を行う中で、日常生活では気づきにくい外国籍児童の置かれた状況や気持ちについて、より具体的かつ実感を伴って理解することができたようです。

イスラム教徒の子どもがクリスマス会に参加できない状況をテーマとした短編動画「クリスマス会」について、学童児童の保護者からも、「これまで外国籍児童への宗教的な配慮について考えたことがなかった」との声が寄せられました。本作品は、多様な背景を持つ子どもたちの立場に目を向けるきっかけとなったと感じています。

動画「クリスマス会」



動画「ぼく」



## 5月27日 東京都人権プラザ

子どもの権利条約に関する情報収集を目的に、プロジェクトメンバー3名が東京都人権プラザを見学しました。神奈川県内には人権教育について学べる専門施設がないことや、人権関連の書籍が豊富に揃っている点から、同施設の訪問を決定しました。見学の様子や施設の情報をSNSに投稿したところ、多くの反響（エンゲージメント）を得ることができました。

[施設情報] 東京都人権プラザ

所在地：〒105-0014

東京都港区芝二丁目5番6号芝256 スクエアビル 1・2階



## 7月30日 神戸デザインクリエイティブセンター KIITO



# Report

## 子ども主体の活動に取り組む団体・施設

### 視 察

「ちびっこうべ」という子ども向けの体験プログラムでは、社会の仕組みや仕事について楽しみながら学び、子どもたちがクリエイターのサポートのもと、自分たちでお店をつくり、理想の“夢のまち”をつくり上げています。企画の担当者から、あらかじめすべてを作り込むのではなく、人が関わる余地をあえて残す「不完全プランニング」という考え方を大切にしていることを伺いました。

[施設情報] 神戸デザインクリエイティブセンターKIITO

所在地：〒651-0082神戸市中央区小野浜町1-4デザイン・クリエイティブセンター神戸 1F事務所

## 7月30日 とよなか国際交流協会

とよなか国際交流教会は、外国人が安心して集える居場所づくり&エンパワメントを進める事業（場づくり）、多文化共生社会を推進する人を育てる事業（人づくり）を中心に、さまざまな活動を地域や学校と連携しながら日常的に展開。「私たちは、外国人版社会福祉協議会です」と語っていたのが印象的でした。

[施設情報] とよなか国際交流センター

所在地：〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-1-601「エトレとよなか」6F



## 7月31日 IKUNO・多文化ふらっと

[施設情報] IKUNO・多文化ふらっと

所在地：〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷5丁目5-37いくのコーライズパーク A棟2階（もと御幸森小学校）

IKUNO・多文化ふらっとでは、大学生や社会人のボランティアが、外国ルーツの子どもたちに対して学習支援や日本語の指導を行っています。子どもたちは、自分で学習のルールを決めます。大人は「子どもに任せる」ことを基本方針とし、教える人と教わる人が“バディ”を組んで、学習内容や休憩時間などを一緒に決めながら進めています。そのため、進行は子どもによって多様で、一律ではありません。

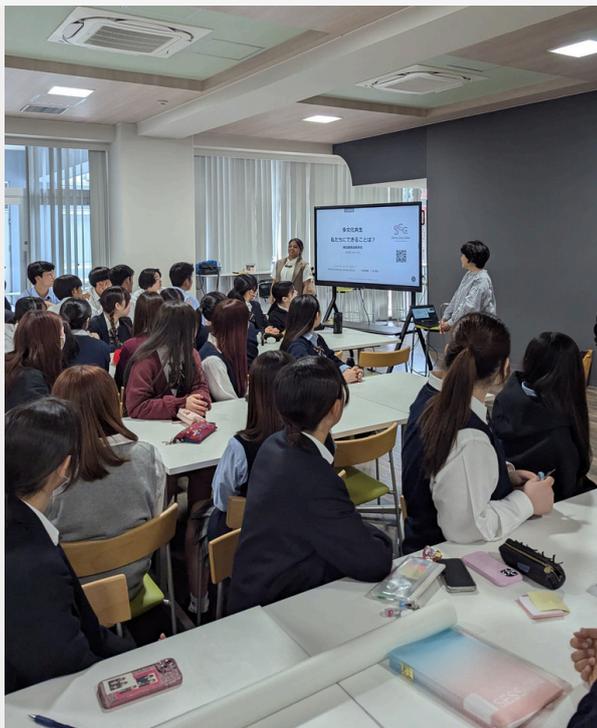
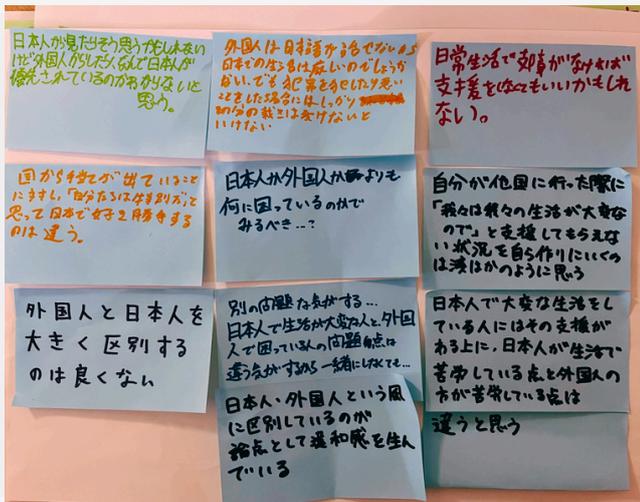
- ・ 多様性を受け入れること
- ・ みんなでルールをつくること
- ・ マイノリティの子どもたちが意見を表明できる環境を整えること
- ・ 外国ルーツの子どもたちをエンパワメントすること

誰もが暮らしやすいまちづくりに必要なことを事務局長の宋さんに教えてもらいました。



# 次のステップ

青葉区および都筑区の学習塾や学童の協力のもと、小学生から高校生までの幅広い年齢層を対象とした、多文化理解教育のツール開発に取り組むことができました。また、2024年11月には、神奈川大学附属中学校より「多文化共生」をテーマとした探究学習の講座実施の依頼を受け、当法人の外国出身者2名と代表理事の三坂が講師を務めました。この機会に中学2年生を対象に開発中の多文化理解教育プログラム「Diversity Talk」ワークショップを実施したところ、多くの生徒から積極的なコメントが付箋に書き出されるなど、関心の高さがうかがえました。参加生徒の中には中国ルーツの生徒もあり、日頃は話しにくい想いを共有することができたと話していました。また、2025年4月11日には、横浜創英高校にて「多文化共生」をテーマとした授業で、高校2年生を対象に多文化理解のワークショップを実施しました。



## 今後のステップと課題

本事業によって、多文化理解に重点を置くDiversity Talkワークショップのパッケージ化およびワークショップ用カード（Diversity Talkカード）の制作を実現することができました。今後は、中学校・高等学校において本ワークショップを実施し、中高生を対象とした人権教育・多文化理解教育の充実に貢献していく予定です。加えて、以下の点が今後の重要な課題・取り組みとして挙げられます：

- Diversity Talkカードを学校現場等で継続的に活用してもらうための運用モデル・仕組みの構築
- Diversity Talkカードを用いたワークショップをパイロット事業として実施するため、協力校（モニター校）の募集
- 教員向けのDiversity Talkカードを用いたワークショップ導入に向けた資料・ガイドの整備

これらの取り組みを通じて、外国ルーツの子どもを含む多様な背景をもつ児童・生徒一人ひとりの理解促進と、包摂的な学びの場の構築を目指してまいります。

# 終わりに

私たちはこれまで、野外でのイベントを実施する中で、何度か通行人の方から「日本人でも困難な生活をしている人がいるのに、外国人を特別に支援する必要があるのか」といったご意見をいただいたことがあります。また、「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますかと尋ねると、「知らない」と答える方も多いのが現状です。「日本人」と「外国人」という枠組みで物事が語られがちであり、地域において互いに接点をもつ機会が少ないことも、その一因と考えられます。そうした中で、日常生活では見えにくい外国ルーツの方々が抱える課題や思いを、社会に顕在化させる手段として「Diversity Talkカード」を制作できたことは、大変意義深いことだと考えています。本取り組みを実現するにあたり、多大なるご支援をいただいた東急株式会社様に、心より御礼申し上げます。

NPO法人Sharing Caring Culture 代表理事 三坂 慶子



青葉区の学習塾の中高生とSCCメンバー



シェアリング ケアリング カルチャー

**NPO法人Sharing Caring Culture**

 <https://sharingcaringculture.org/>

 [info.sccjapan@gmail.com](mailto:info.sccjapan@gmail.com)



ホームページ



Facebook



Instagram